

令和6年度 第3回 松江市立皆美が丘女子高等学校運営協議会 会議録

- 1 日 時 令和7年3月18日（火） 11時10分～12時10分
- 2 場 所 松江市立皆美が丘女子高等学校 会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員 大谷みどり委員(会長)、昌子 誠委員(副会長)、宮廻智美委員、
*欠席：鷗鷗 順委員、池田太持委員
 - (2) 事務局 多々納雄二校長、山中清恵教頭、糸川健治事務長
- 4 議 題
 - (1) 学校評価
 - (2) 令和7年度学校経営方針
 - (3) その他
- 5 議事の要旨
 - (1) 学校評価
資料を踏まえ意見を徴取した。
 - (2) 令和7年度学校経営方針
資料により方針を確認した。
 - (3) その他
案件は無かった。
- 6 会議経過
 - (1) 学校評価
委員から次のような意見があった。
 - ・ C評価となった項目のうち、「図書環境の充実と図書利用の増加」については、紙ベースでの図書紹介だけでなく、ICTを活用するなどの工夫も必要である。また、「基本的生活習慣の定着」については、身だしなみを整える意義など丁寧に説明していく必要がある。
 - ・ 「学力の向上」において、3年学年会での教員評価が大きく低下していることについて、3年生になって学習意欲が低下したと教員が捉えたものと推察するが、試験結果などによる客観的な評価も必要である。
 - ・ 「図書環境の充実と図書利用の増加」についてはこどもの頃からの習慣も重要な要素である。また、松江市子どもの読書活動推進計画で定める目標値を参考にするなど、データによる評価も必要である。
 - ・ 評価の高い項目については、生徒が豊かな高校生活を送れるよう、引き続きチャレンジをしていただきたい。
 - ・ 教員・保護者・生徒の各評価者間で、評価のギャップ（差異）がある項目について

は、その要因を考える必要がある。

- ・ 学力や生活習慣など注目されがちな項目の満足度・達成度は、学校全体の評価に繋がるものなので注視していきたい。

これに対して事務局から次のような説明があった。

- ・ いただいた意見を「学校関係者意見」として表に記載し、学校評価をまとめる。
- ・ 評価のギャップについては危機感を持っている。指導に対する要求への対応やより生徒に向き合う姿勢が必要と考えている。

(2) 令和7年度学校経営方針

委員から次のような意見があった。

- ・ 部活動加入率が低下していると聞くと、部活動の活性化にも取り組んでいただきたい。
- ・ キャッチフレーズも重要であり、誰もが共有できる言葉で表現するとよい。
- ・ 入学者選抜の状況について、国際コミュニケーション科の志願倍率が低い状況が続いているが、一方で外国語指導助手（ALT）を3人配置するなど、語学やグローバルな学びに対しては手厚いのが本校の特徴であり、上手に活かしてほしい。

これに対して事務局から次のような説明があった。

- ・ 部活動への加入状況については中学校も同様であると聞いており、少子化の影響も大きい。また、学校ではなく、地域のクラブ等での活動も広がってきている状況である。学校の部活動にも注力はあるが、それがすべてではないと考える部分もある。

7 事務局等

松江市立皆美が丘女子高等学校 電話 0852-39-0216